

K-2153  
①

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

第3041602号

(45) 発行日 平成9年(1997)9月22日

(24) 登録日 平成9年(1997)7月9日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>

A 0 1 K 95/00

識別記号

庁内整理番号

F I

A 0 1 K 95/00

技術表示箇所

C

評価書の請求 未請求 請求項の数1 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号

実願平8-14063

(22) 出願日

平成8年(1996)12月25日

(73) 実用新案権者 597025035

後▲藤▼ 清勝

山形県酒田市光ヶ丘1丁目8番25号

(72) 考案者

後▲藤▼ 清勝

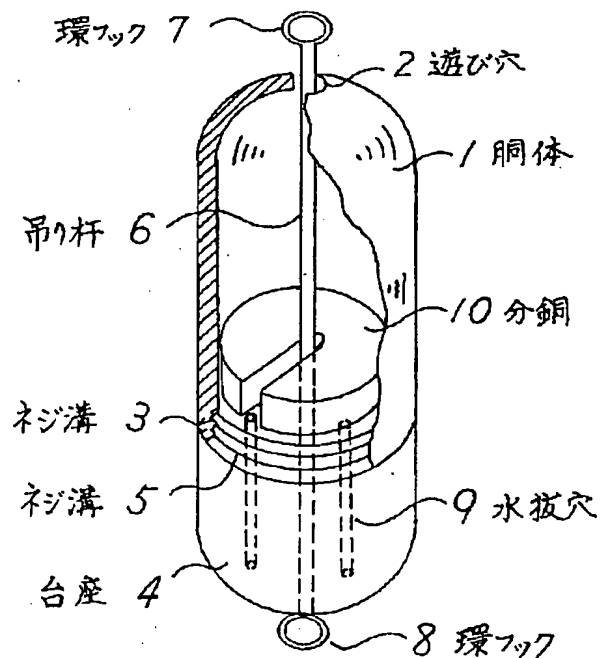
山形県酒田市光ヶ丘1丁目8番25号

(54) 【考案の名称】 任意の重さに変換出来る釣用錘

(57) 【要約】

【目的】 釣りに携行する錘の重量及び種別の半減を計り、且つ単一の錘で、原形を変えずに任意の重さに変換可能な錘を提供する。

【構成】 胴体(1)の下部内周にネジ溝(3)を施し、台座(4)の上部の外周にネジ溝(5)を設け、台座の中心部に吊り杆(6)を固定し、その吊り杆の、上下端は環フック(7、8)にする、台座(4)には数ヶ所の水抜穴(9)を備える。重量加減用の分銅(10)を台座にセットし、胴体をかぶせネジ部を結合し単一の錘にすることを特徴とする。



10. 370-14063-2-7. 12

【実用新案登録請求の範囲】  
 【請求項1】 胴体（1）の上部中心に遊び穴（2）  
 を、下部の縁周内径側にネジ溝（3）を設ける、台座  
 （4）は外周上部にネジ溝（5）を施し、中心部に吊り  
 杆（6）を貫通固定し、その上下端部を共に環フック  
 （7）（8）にする、さらに水抜穴（9）を数ヶ所に貫  
 通具備し、加減用の分銅（10）とによって成る、任意  
 の重さに変換出来る釣用錘。

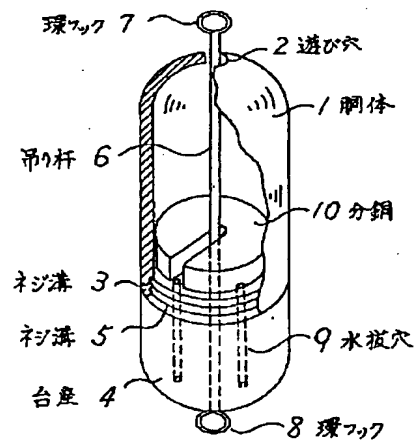
【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案の斜視図

【符号の説明】

- 1 胴体
- 2 遊び穴
- 3 ネジ溝
- 4 台座
- 5 ネジ溝
- 6 吊り杆
- 7 環フック
- 8 環フック
- 9 水抜穴
- 10 分銅

【図1】



## 【考案の詳細な説明】

## 【0001】

## 【産業上の利用分野】

本考案は釣り用の錘に関するものである。

## 【0002】

## 【従来技術】

従来より釣り用の錘は限定された重さにて分類されて居り、その種別は多種類に及ぶものである、故に釣人は釣場の状況や天候に対応出来るように数多の錘を携行せざるを得ないのである。況や海の舟釣りでは潮流の変化が有りそれに相応する重さの錘を多品種又多量に持たねばならない不便を余儀なくしてるのが現状である。

## 【0003】

## 【考案が解決しようとする課題】

本考案では釣行に携行する錘の重量及び種別の半減化を主目的とするため、単一の錘で、原形を変えることなく重量が簡単容易に増、減の可能な釣用錘に、しようとするものである。

## 【0004】

## 【課題を解決するための手段】

吊鐘状の胴体（１）の上部中心に遊び穴（２）を設け、下部の縁周の内径側にネジ溝（３）を設ける。台座（４）は外周上部にネジ溝（５）を施し、中心部に吊り杆（６）を上下方向に貫通固定し、その上下端部を共に環フック（７）（８）にし、さらに外周内側に数ヶ所の水抜穴（９）を具備するものとなし、加減用の分銅（１０）は台座（４）に任意の重さをセットして、胴体（１）と台座（４）をネジ溝（３．５）で結合し単一の錘と成る、任意の重さに変換出来る釣用錘である。

## 【0005】

## 【作用】

本考案を使用するには、台座（４）に分銅（１０）を任意の重量をセットし、胴体（１）をかぶせてネジ溝（３．５）で結合し、単一の錘にして環フック（７．

8) に釣糸を結び使用するものであって、分銅(10)の加減次第で重量の異なる錘を創出して使用するものである。

#### 【0006】

##### 【実施例】

以下本考案の実施例について説明する。釣に欠かせない道具の一つである錘の開発に係る本考案は、錘の原形そのまま重量の異なる数種の錘に変換する為に吊鐘状の胴体(1)と、秤の計量台の如き役務の台座(4)の中心に吊り杆(6)を固定して、その上下端部は環フック(7、8)を具備する如きにして、釣糸などを取り付ける、分銅(10)は台秤の分銅と同様の形で、それ自体が錘になる為に本考案では、均等な重さの分銅で加減するのが至便である。

上述の如き役務の分銅(10)を台座(4)に任意の重量をセットして胴体(1)を台座(4)にかぶせ、ネジ溝(3、5)を結合して単一の錘にして使用するのである。実際の釣りに於いて従来の錘と本考案の錘の使用例を舟釣りで述べると、舟釣りでは風、波の強弱、潮流の速さ等に対応する為に従来の錘では、重量の異なる数種の錘を相当量携行するのが常である。、例えば現在使用中の錘が70gだが潮流の変化で100gの重さにするには、70gを取り外して100gの錘に付け換えねばならず、為めに計170gを必要としたのである。

本考案では使用中の70g錘の場合は30g分の分銅(10)を加えるだけで、100gの単一の錘を創り出すのである。加えて水抜穴(9)は錘の落下や引き揚げの際の水の抵抗を極度に減少させる為に、錘の泳ぎがなくなるのである。

以上本考案の任意の重さに変換出来る釣用錘の実施例である。

#### 【0007】

##### 【考案の効果】

本考案よりなる、任意の重さに変換出来る釣用錘は、外形的に単品の錘であるがその原形を変えることなく重量の異なる数種の錘を提供出来るものであり、この錘の特徴である。本考案によって従来に比して大幅な重さの軽減が可能となった、即ち材料資源の節約と生産労力の省力に貢献するもので、その及ぶところ真に甚大なものである。